

外来新患診療体制表

平成24年11月現在

(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
消化器科	新患	●	●	●	●	●
	専門外来	肝臓	肝臓	胆・膵	肝胆膵・下部消化管	上部消化管
内科	血液内科	●	●	●	●	●
	化学療法科	●	●	●	●	●
呼吸器科	呼吸器内科	●	●	●	●	●
	呼吸器外科	●	●	●	●	●
外科	乳腺科	●	●	●	●	●
	外科	●	●	●	●	●
整形外科		●	●	●	●	●
脳神経外科		●	●	●	●	●
頭頸科(耳鼻いんこう科)		●	●	●	●	●
形成外科		●	●	●	●	●
婦人科		●	●	●	●	●
泌尿器科		●	●	●	●	●
放射線治療科		●	●	●	●	●
緩和医療科		●	●	●	●	●

*消化器科では、専門外来の診察日にも紹介患者さんの予約を受け付けております。お申し込みの際にご確認下さい。
 診療受付時間：午前 8 時30分～11時00分 TEL 022-384-3151(代) FAX 022-381-1169 (地域医療連携室)

地域医療連携室だより

地方独立行政法人 宮城県立病院機構
宮城県立がんセンター



電子カルテと地域連携



副院長 小野寺 博義

今年もまた雪の季節が訪れようとしています。皆様には日ごろからお世話になり御礼申し上げます。

当院では平成26年1月からの完全電子カルテ化を目指して作業が続いています。現在のコンピューターはオーダリングシステムで、紙のカルテが原本という状況です。

電子カルテの導入により、例えば患者さんが自分の診療データをICカードなどで持ち歩き受診した医療機関で利用する、あるいは電子カルテをクラウド化して全ての医療機関が書き込んで利用するなどの方法で情報の共有化を図れば、医療機関の間での連携が充実して無駄も省けるはずですが、しかし、統一された電子カルテシステムの規格がなく、更に各医療機関で独自に電子カルテをカスタマイズしてしまうので、将来的にも電子カルテ情報の共有化は日本では実現困難と思われます。フィンランドでは、各病院や薬局で個別に管理する患者さんのカルテや処方せん履歴を、フィンランド中の医療機関で共有できる仕組みを富士通が構築したそうです。是非、日本においても構築してほしいものです。

全国的ではなく、基幹病院と関連医療機関をラインで結び、お互いに医療情報を共有化する地域限定のシステムは構築可能です。しかし、セキュリティの問題があります。セキュリティを如何に強固にしようとも、ラインに接続すればデータを盗まれることはあり得ます。「エラー・事故は100%起こりえず、100%あってはならない」という考え方が強い我が国では、医療機関のみならず、自分のデータを記録される患者さんのセキュリティに対する正しい理解を得ることも不可欠です。したがって、現時点では導入予定の新システムではオンライン化は予定していません。しかし、オンライン化による情報共有化により地域連携の充実が図れると期待されますので、将来的には何らかの機会に実現したいと考えています。その際には、皆様のご協力を頂かなければなりませんので、よろしく願い申し上げます。

第226回 宮城県立がんセンターセミナー

がん臨床試験の統計的側面-最近の事例をふまえて-

演者 **森田 智視 教授**
 横浜市立大学学術院医学群 臨床統計学・疫学
 日時 平成24年11月30日(金) 17:30~19:00
 場所 宮城県立がんセンター 大会議室

臨床試験は大きく第Ⅰ相、第Ⅱ相、第Ⅲ相の3つの相に分けて段階的に実施され、“お決まり”の試験デザインと解析方法がこれまで用いられてきた。最近ではどういった治療法を開発するのかというコンセプトの証明を行っていくことが重要視されている。そのため既存のデザインでは対応しきれず、臨床的リクエストに対して様々な試験デザインや統計的手法が提案され、実際に適用され始めている。特に癌領域では多くの分子標的薬の開発が盛んに進められており、標的集団を意識した開発戦略が活発に議論されている。本講演では、まず試験結果を解釈する際に知っていた方がよいと思われる臨床統計の基礎的事項を簡潔にまとめる。その上で、最近よく目にする、結果の解釈が単純ではない事例、例えば、生存曲線が途中で交差したケースなど、を紹介しながらそれらの統計的解釈を議論する。最後に、新しく用いられるようになってきた試験デザインの適用事例を紹介する。

本セミナーは、東北大学大学院医学研究科「がん医学セミナー」(2単位)を兼ねます。



交通案内

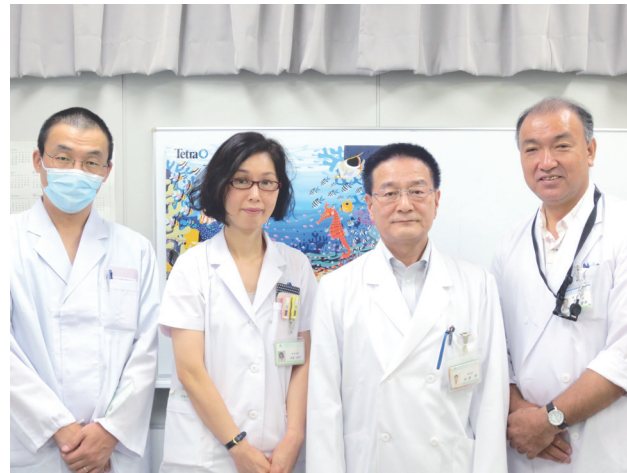
J 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
 桜交 名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用
 仙南交 名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用
 自家用車 仙台南インターからは、国道286号バイパス経由
 名取市役所 県道仙台・岩沼線を利用 (所要時間約15分)

地域医療連携室のご案内
 地域医療機関の先生方からご紹介を受けた患者さんの診療予約をお取りしてスムーズな受診ができるようにしております。
 ○受付 午前 8 時30分～午後 5 時15分
 ○TEL (022) 381-5152(直通)
 (022) 384-3151(代) 内線115
 ○FAX (022) 381-1169

宮城県立がんセンター
 〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1
 電話(代表) (022)384-3151 FAX(総務課) (022)381-1168
 □ゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。

診療科紹介

婦人科



藤田信弘 大友圭子 田勢 亨 山田秀和

婦人科診療の概要

診療科長 田 勢 亨

宮城県立がんセンター婦人科では主に子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんの診断や治療を担当しています。また外陰がんや腹膜原発がん等も治療の対象となります。診療内容としては細胞診・組織診や画像診断を中心とした婦人科腫瘍の診断はもとより、手術・化学療法・放射線療法による治療の面でも関連する他科とも連携しながら高いレベルの診療を行っているとお負しています。

従って婦人科がんの診断が得られ、治療が必要な患者さんばかりでなく、診療していて悪性が否定できずに悩む症例や、良性疾患として経過観察や治療後に悪性が判明したケースなど遠慮せずにご紹介・相談いただけたらと思っています。また治療開始前や治療中の患者さんがセカンドオピニオンを希望した場合でもいつでもお受けいたしますのでお申し付けください。

診療内容

1) 外来診療

月・火・木曜日の午前中に外来診療を行っています。外来は多少混んでいてもお断りすることはせずに全例診ています。ぜひ地域連携室を通してご紹介下さい。

2) 入院・外来治療

基本的には婦人科がん治療ガイドラインに沿った治療を行っています。中でも出来る限り患者さんの希望・要望に応じた、患者さんが満足いただける治療を行う様に心がけています。各疾患の治療内容は以下の通りです。

1. 子宮頸がん: 子宮頸上皮内腫瘍・上皮内癌～I a1期に対しては年齢に応じ出来る限り円錐切除による子宮を温存した手術を行います。I・II期に対しては病期に応じた手術(単純～広汎子宮全摘術)を行います。広汎子宮全摘術では膀胱機能を温存する神経温存手術を行っています。進行例や術後の再発高リスクに対しては放射線療法単独もしくは化学療法併用放射線療法により治療しています。
2. 子宮体がん: 手術(子宮摘出、後腹膜リンパ節廓清)を原則とし必要であれば化学療法や放射線による治療を行います。
3. 卵巣がん: 根治性を目指した手術と化学療法を行います。
昨年度の主な疾患の手術件数は子宮頸がん25例、子宮体がん36例、卵巣がん33例でした。また症例に応じて外来化学療法も積極的に取り入れております。

おわりに

平素連携医療機関の皆様には大変お世話になり、心から感謝しています。今後も患者さんを中心に紹介医療機関と緊密でスムーズな連携を取れる様に努力してまいりますので今後ともよろしくお願いいたします。

部門紹介

臨床検査部



前列
臨床検査技術科長 泉澤淳子
臨床検査技術部長 細川洋子
臨床検査部長 長井吉清
臨床検査副部長 佐藤郁郎 (病理診断科)
医療部長 伊藤しげみ (病理診断科)

宮城県立がんセンターでは、テーラーメイド医療の推進、高度先端医療の推進に取り組んでいます。近年、分子標的治療薬が数多く開発されましたが、従来の化学療法薬に比べ高額な費用を要するため、治療の適否の決定にあたっては、EGFR遺伝子蛋白やc-kit遺伝子蛋白が発現しているか、どの程度発現しているかを蛋白レベル(免疫組織化学)でなく、DNAレベル(遺伝子変異解析、FISH等)で確認する必要があります。そのため必須な検査法が遺伝子解析です。

臨床検査部門では以前、遺伝子解析を院内で行っていたのですが、cost-performanceの関係で外部委託となっておりました。しかしながら、当センターはがん専門病院であり、院内で遺伝子解析を行うメリットは大きいので、FISH/DISHを加えて以前よりパワーアップした形で再開することになりました。

1. 何ができるか

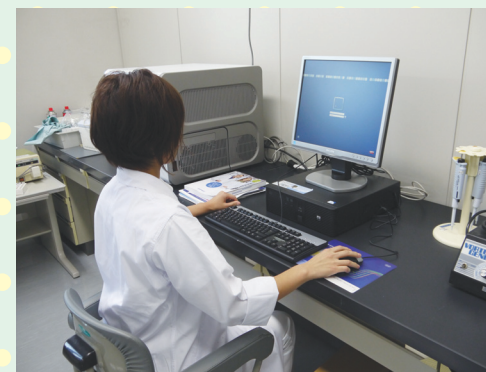
遺伝子解析といっても実に多種多様ですが、大別すると

- [1] 遺伝子変異解析
- [2] 遺伝子増幅解析
- [3] 遺伝子転座解析

の3つになります。遺伝子変異では正常には存在しない変異タンパクが出現するのに対して、遺伝子増幅とはmRNAのコピー数が増加する病態で、正常でも存在する蛋白が過剰発現します。がんの発生部位によっても事情は大きく異なります。たとえば、同じEGFR遺伝子といっても肺がんでは遺伝子変異、大腸がんでは遺伝子増幅の形で発がんに関わっています。遺伝子転座は多くの肉腫や白血病の原因になっていますが、数は少ないものの転座に基づくがんも発見されていて、肺がんにおいて明らかになったEML4-ALK fusionやKIF5B-ALK fusionなどがそれにあたります。

2. パワーアップして再開

乳癌や胃癌におけるHER2遺伝子、大腸がんのEGFR遺伝子の増幅を感度よく検出するには、FISH/DISHの導入が不可欠です。FISH/DISHは遺伝子転座の解析にも有用で、EML4-ALK転座肺癌に対するテーラーメイド医療(crizotinib)が保険収載されたことを受けて、FISH/DISHはその効果予測にも威力を発揮してくれるものと期待されています。



遺伝子変異解析



遺伝子増幅解析